

# 庄原赤十字病院 看護部の目指す教育

『赤十字看護師の看護実践能力向上のためのしくみ』  
に基づき、庄原赤十字病院の看護師として  
『安全で心のこもった温かい看護ができる』  
ための看護実践能力を高める

メインテーマ  
**育み育まれ**

## 重点目標 看護的視点・科学的根拠 「生きる」を支える看護実践 4つの看護部会の立ち上げ

赤十字看護師キャリア開発のしくみ・看護助手研修と平行し、  
医療を看護の視点で実践できる教育を目指しています。

昨年度のナイチンゲールフェスティバルと看護研修「樹☆輪」を  
経て、看護的視点で人を見るというその基盤づくりが出来つつあり  
ます。生活過程を整えることが、生命力を高めることにつながれる  
看護実践の素晴らしさを実感している今、さらに患者の「生きる」  
を支えるための仕組みづくりに着手しています。

看護実践強化プロジェクト「樹☆輪」をベースとした看護の部会  
を立ち上げ、科学的根拠に基づき生活過程を整え、生命力を高め  
る、こころのこもった温かい看護が実践出来る看護師が育つしく  
みを創造しています。

「生きる」を支える  
看護の力を高めよう

### 病院の概要

- 病床数 / 301床 6病棟(うち1病棟41床は療養型病床)
- 一般病床利用率 / 87.4%
- 平均在院日数 / 18日
- 看護職員有資格者 / 看護師208名・助産師7名・准看護師7名
- 10対1 入院基本料
- 専門教育修了看護師  
認定看護管理師1名・感染看護認定看護師1名・集中ケア認定看護  
師1名・緩和ケア認定看護師1名・摂食嚥下認定看護師1名・  
透析看護認定看護師1名  
※その他 / 呼吸理学認定士・DM指導士・認知症ケア専門士などの  
看護師がいます

7F		食堂・スカイレストラン
6F	病棟	医局・講義室
5F	病棟	事務
4F	病棟	病棟(療養)
3F	病棟	施工中 OP、中央材料室、ICU
2F	病棟	外来、中央処置、化学療法(内科系)
1F	外来、透析、厨房	外来、放射線(外科系)
B1F	サービス駐車場	機械、電気、洗濯、倉庫 霊安、解剖、委託、ゴミ
	既存建物	2期建物 1期建物

## ごあいさつ



庄原赤十字病院院長 中島 浩一郎

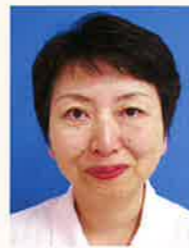
看護師さんといえばどのようなイメージでしょうか。古典的なものとしては「白衣の天使」という言葉がありますが、最近は「3Kの職場」という声も聞こえてきます。

歴史的に見れば、ホスピスの語源は巡礼者(かつては多くのものが途中で倒れた命がけの旅でした)の救護からきています。助ける方も命がけでした。フローレンス・ナイチンゲールが活躍したのはクリミア戦争という悲惨な戦場であり、赤十字思想も戦場の救護から生まれました。こうしてみると看護という仕事はかつて厳しいものであり、現在もそうであるといえます。それと同時に戦いで倒れた兵士たちにとって、血まみれとなって包帯を巻いてくれる彼女たちが「天使」のように思えたことも理解できます。

現在でも身近で同じようなことが起こります。私は数年前から肉親の死や手術などを経験し夜間も付き添いをしていました。急なことがあってナースコールを押した時、看護師さんがすぐに来て下さり、安心感以上に心の安らぎを得られたことは忘れられません。患者や家族に心の安らぎまでも与えられるのは、仕事という域を超えて、とても尊いことだと思います。個人の人物や性格ではなく、看護という職業のプロフェッショナリズムから生まれてくる尊さでしょう。やはり「天使」ではないでしょうか。

さらにこの「天使」は自立した存在でもあります。ナイチンゲールは医師たちの反対をおして病室の構造を変えてしまいました。その結果、兵士の死亡率が低下したというのは有名な話です。様々な点で、戦場は彼女にとっての自己実現の場でもあったのです。

庄原赤十字病院は、救急医療、高度医療、小児医療、さらには慢性期医療までそろった、バランスのよい活気あふれる病院です。私たちと一緒に自己実現を目指してみませんか、「白衣の天使」として。



庄原赤十字病院看護部長 中藤 好美

庄原赤十字病院は、今年4月に第一期工事(外来や手術室を含む西棟建築)が完了し第二期工事(中央材料室・リハビリ室・玄関エントランスホール)に入ります。そして、平成25年度中に駐車場等を整備して工事は完了します。西棟には、看護師や看護学生のための研修室も新たに整備し、そこに置く看護技術演習用シミュレーターも追加購入しました。教育環境を整えて皆さんと研修する日を待っています。

昨年7月には、私たちが日ごろ行っている看護を文章や写真、オブジェなどで表現しそれを展示して皆様にご覧いただきました。そして、川嶋みどり先生のご講演によって看護の価値を再認識し、「私たちにできることを頑張っている」と決意を新たにしました。ですから、今年は「看護」をもっと深められるようプロジェクトチームを編成して取り組みを始めます。「看護をした」と実感できる仕事をしようと話し合っています。

当院は庄原市を医療圏としており、とにかく救急車を断らないことをモットーにしています。急性期から慢性期までの医療を提供しているので、急性期の大変な時期を脱した患者さんが回復していかれる時間を一緒に過ごすことが出来ます。

また、庄原市は面積が広く、無医地区も多いことから当院は僻地診療も行っています。

豊かな自然の中で、温かい地域住民の方に見守られながら、質の良い看護を目指して一緒にがんばりましょう。

